

リウマチ・膠原病だより

東広島記念病院 リウマチ・膠原病センター

広島生活習慣病健診センター

医療法人(社団)アマナ会

東広島記念病院 広報誌

Vol.1 No.2

発行日 2008年7月1日

創刊日 2008年4月21日



理念

1. 私共は医道を尊び、規律を守り社会的責務にこたえます。
2. 私共は常に研鑽し信頼される病院を創ります。
3. 私共は安全な医療を提供出来る病院をめざします。

患者憲章

1. 尊厳を保つ医療を受ける権利を有します。
2. 納得出来る説明と情報を受ける権利を有します。
3. 十分な情報提供下で治療方針を選択する権利を有します。
4. 医療機関を自由に選択出来る権利を有します。

今月のトピック

関節リウマチにおける生物学的製剤 - 連載(1)

リウマチ治療の革命的な進歩 - 生物学的製剤

近年の分子生物学の進歩はめざましく、リウマチ性疾患の分野もその恩恵を強く受けています。というよりもリウマチ性疾患での治療の成功が、分子生物学的手法により生み出された治療薬の進歩を牽引してきたと言っても過言ではありません。それほど、近年の関節リウマチの治療は大きく変化してきています。関節リウマチは、炎症性に肥厚した滑膜(パンヌス)により関節周囲の骨破壊が引き起こされる疾患です(図1)。現在まで使われて来たメソトレキセートを中心とした抗リウマチ薬では症状は抑えても骨の破壊は完全には防止できませんでした。しかし、10年ほど前から世界的に広く使われ始めた生物学的製剤は骨破壊の完全な防止を可能にしました。現在、日本において関節リウマチで保険適応となっているのは、TNF と IL-6 という関節リウマチでの滑膜炎を惹起する中心的役割をしているサイトカインを標的としたものです。

TNF を標的としたものとしては、マウスの抗ヒト TNF 抗体とヒトの IgG を遺伝子工学で融合させた中和抗体である「レミケード」(キメラ型抗ヒト TNF モノクローナル抗体製剤)、おとり受容体として働く「エンブレル」(完全ヒト型可溶性 TNF レセプター製剤)が使用されています。最近、完全ヒト型の中和抗体として「ヒュミラ」(ヒト型抗ヒト TNF モノクローナル抗体製剤)が、保険適応となりました。IL-6 を標的としたものは「アクテムラ」(ヒト化抗ヒト IL-6 受容体モノクローナル抗体製剤)が、保険適応となっています。こちらは大阪大学が中心となって開発された純国産の生物学的製剤です。それぞれ投与方法が異なり(表1)効果、副作用の種類、頻度などが微妙に異なり



リウマチ科科长
山名 二郎

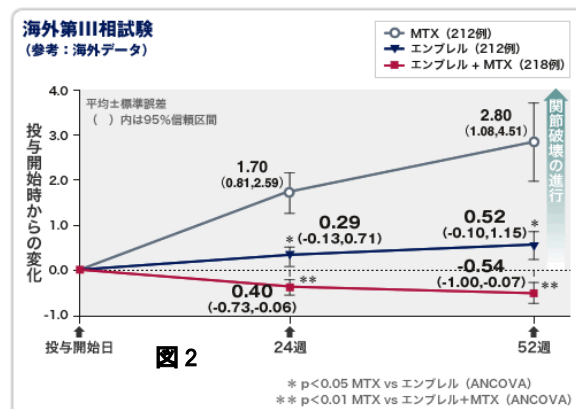


ます。従来の抗リウマチ薬と同様に、どのような症例にどの薬剤を使うべきかというのは現在のところはっきりした指標はない状況です。しかし、さらに関節リウマチの病態の解明が進めばテーラーメイド医療も可能となることでしょう。

表 1

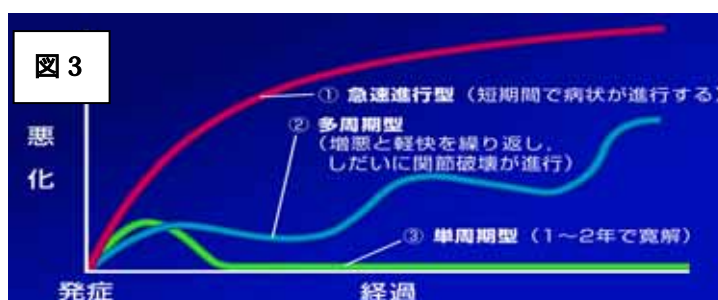
一般名/商品名	内 容	投与法	その他
インフリキシマブ レミケード	抗 TNF 抗体製剤(キメラ)	点滴静注 0,2,4,6週目、以後8週ごと	MTX の併用を要する
エタネルセプト エンブレル	TNF 受容体製剤(ヒト型)	皮下注 週 2 回	
アダリムマブ ヒュミラ	抗 TNF 抗体製剤(ヒト型)	皮下注 2 週ごと	
トシリズマブ アクテムラ	抗 IL-6 受容体抗体(ヒト化)	点滴静注 4 週ごと	

欧米では、抗原提示細胞と T 細胞との相互作用を抑制する「オレンシア」(完全ヒト型 CTLA 4 Ig 製剤) 悪性リンパ腫ではすでに使用されている B 細胞をターゲットとした「リツキサソ」(抗ヒト CD20 モノクローナル抗体製剤) など関節リウマチの治療に使用されており、日本でも治験が行われています。今のところ従来の抗リウマチ薬が無効ないし効果不十分な患者さんに使用することになっています。治療効果はすばらしいものがあり、海外での臨床治験においては骨破壊の完全な抑制を示しているデータもあります(図 2)。



しかし、いくつかの注意すべき副作用があります。抗 TNF 製剤では、結核菌の封じ込めが弱まることから結核菌の再活性化、新規発症が問題となっており慎重なスクリーニング検査、必要な症例には抗結核薬の予防投与が必要です。また、副鼻腔炎、慢性気管支炎などの慢性感染症がある患者さんには使用が困難です。抗 IL-6 製剤においては感染症における CRP などの急性期炎症反応や発熱などの自覚症状を隠してしまうことから重篤な感染症の発見が遅れてしまうことがあります。どちらの製剤も免疫抑制作用が強いため日和見感染症への注意が必要です。そのため適応を十分に検討し、厳重な管理をおこなう必要がありますので使い慣れた専門医の元で使用すべき薬剤です。また薬剤が高価(3割負担での自己負担:年間約36万~70万円)であることも問題点です。関節の変形を完全に抑制することが期待できる画期的な薬剤ですが、それでも現時点では薬物療法を永続的に中止できる状態(治癒)に導くことは困難と考えられています。関節リウマチの治療は生物学的製剤の出現で飛躍的に進歩しています。しかし、早期発見、早期治療こそもっとも重要なことに変わりはありません。関節リウマチ発症後6ヶ月以内が“Window of opportunity”とされ(図3)、この期間内に専門医のもとできちんとした治療を開始することが機能障害を抑制するのにもっとも重要とされています。

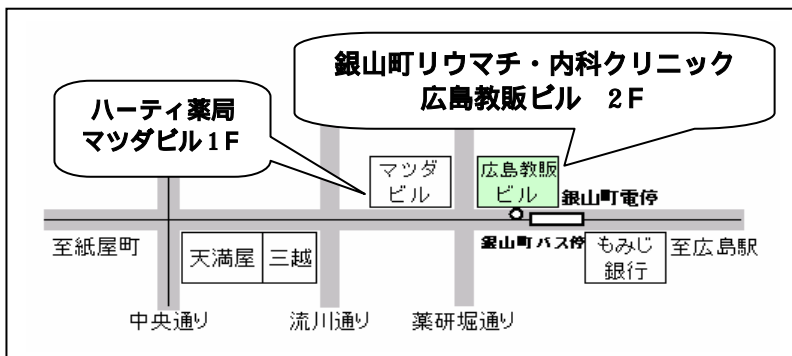
当院では、豊富な臨床経験に基づく抗リウマチ薬治療を早期に始めることにより寛解導入を得ることを第一とし、どうしても必要で可能な症例には生物学的製剤の投与を行うというスタンスで診療に当たっております。また、治験という形で保険適応となる前からの各生物学的製剤の豊富な使用経験があり、その使用に習熟しております(当院ホームページ参照)。関節リウマチの疑いのある症例、関節リウマチの治療に難渋している症例などありましたらどうぞ一度ご紹介ください。(次号からは各薬剤の詳細な臨床データを提示していきます。)



広島市内サテライト診療所のお知らせ！！

2008年8月1日より広島市銀山町電停前に銀山町リウマチ・内科クリニック（当院分院）を開院いたします。広島市内のサテライト診療所は東広島記念病院開院以来の願望が、やっと15年目にして実現しました。一診制で本院に比べれば医療上の制約もありますが、市内の方々の利便性の一助となれば幸いです。

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
午前 9:00～13:00	山名	岩橋	/	金	古林	院長 (山名)
午後 14:30～18:00	山名	岩橋	/	金	古林	/



銀山町電停下車徒歩1分 銀山町バス停下車徒歩1分

診療時間
 午前 9:00～13:00（原則予約制）
 午後 14:30～18:00（原則予約制）

連絡先
 TEL 082-245-6661
 FAX 未定

お知らせ

- ・駐車場をご用意していません。東広島の本院には、いつでも駐車可能なスペースをご用意いたしております。広島インターより20分です。
- ・生物学的製剤の使用はサテライトでも一部行いますが、安全管理を考えて原則東広島記念病院本院で行います。
- ・午後に1日1便定期マイクロバスを本院との間で運行予定です。

2008年度赴任医師自己紹介

この4月に4名の新任医師を迎えました。中村先生、古林先生はリウマチ学会認定専門医。角南先生、東先生は健診部門です。角南先生は消化器内視鏡の専門医でもあります。

4月1日付けで着任しました中村です。患者さんのお役に立つ良心的な診療を心がけていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

中村 武



大阪市立大学出身の古林です。平成20年4月より当院で勤務しております。院内では最も若輩ですが、患者さんと一緒にリウマチ・膠原病を治していきたいよう努力しております。宜しくお願い致します。

古林 啓介



4月より赴任いたしました。消化器内科、消化器内視鏡を専門としています。宜しくお願い致します。

角南 泰志



健診センターで勤務している東（ヒガシ）です。人との出会いを大切に頑張りますので、宜しくお願い致します。

東 琢夫



広島生活習慣病健診センター関連ニュース

特定健診について（連載） 今回は別紙にて

外来診療表

2008.6～

		月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
午前 8:45～12:30 【予約制】	1診	院長	金	院長	院長	院長	金
	2診	金	岩橋	岩橋	岩橋	山名	岩橋
	3診	中村	佐々木	山名	佐々木	古林	中村
	6診	山名	...	古林	中村	...	古林
	7診	黒瀬(第4)
	内視鏡	藤本	広大	角南	山名	金	角南/広大
午後	2診	14:30～18:00 金 岩橋 山名 } 輪番制	14:30～18:00 山名	14:30～18:00 岩橋	休診	14:30～18:00 金 (肝臓外来)	14:00～17:00 山名

6月1日より外来診療表を変更しました。上記の外来診療表をご確認下さい。

8月1日よりサテライト診療所開設のため外来診療表を若干変更する予定です。患者様にはご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。



山陽自動車道・西条インターより東広島市街西条方面（南）へ300m
 JR山陽本線・西条駅より車で5分（当院の無料送迎バスあり）
 JR山陽新幹線・東広島駅より車で15分
 広島空港より車で15分（高速道路利用）

〒739-0002 東広島市西条町吉行 2214 番地
 TEL (082)423-6661
 FAX (082)423-7710
 E-mail izika@hmh.or.jp
 ホームページ <http://www.hmh.or.jp>
 発行 広報委員会

編集後記

毎日暑くてじめじめした日々がつづきますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。おかげ様で『リウマチ・膠原病だより』第2号を発行する事ができました。何かのお役に立てれば幸いです。次回は10月の発行予定です。
 広報委員会